

年 間 取 扱 概 要

1 総取扱高

平成 31 年 1 月から令和元年 12 月における青果物の総取扱高は、数量 242,466 t、金額 54,630,746 千円であった。前年と比較すると、数量は 8,597 t 減少（前年比 3.4%減）し、金額は 5,447,250 千円減少（前年比 9.1%減）した。平均単価は 225 円となり、前年と比べて 14 円減少（前年比 5.9%減）した。

2 部類別取扱高

(1) 野 菜

1 月～6 月は、雪解けが早く進み春先の天候が良かったものの、昨年の道内の天候不順等の影響により、道内産の一部品種で品薄となったことや、暖冬の影響により道外産の野菜が単価安となったため、数量・金額・単価共にやや減少した。

道内産「ばれいしょ」は、昨年の天候不順の影響により出荷量が伸びなかったことから、数量・金額が減少となった。道内産「たまねぎ」は、昨年の天候不順の影響を受け在庫数量が減少した影響から、数量はやや減少したものの単価が増加し、金額が増加となった。

7 月～12 月は、道内産の一部品目が単価安となったことや、台風等の天候不順の影響により道外産の一部品目で品薄となったため、数量は微減し、金額・単価がやや減少した。

道内産「たまねぎ」は、道外産の作況が順調だった影響を受け単価が減少し、数量もやや減少したことから、金額がかなり減少した。道内産「ばれいしょ」は、数量がやや減少したことに加え、昨年の単価高だった影響で単価がやや減少したことから、金額もやや減少した。道内産「だいこん」は、干ばつ等の天候不順の影響で数量がやや減少となったことに加え、道外産の作況が順調だった影響を受け単価が減少したことから、金額も減少した。道内産「にんじん」は、数量はやや増加したものの、昨年の単価高の影響により単価はかなり減少したことから、金額も減少となった。

野菜全般では、1 年を通してみると、数量は 192,703 t（前年比 5.1%減）でやや減少、金額は 36,202,534 千円（前年比 13.2%減）で減少となった。また、平均単価は 188 円（前年比 8.3%減）でやや減少となった。

(2) 果 実

道内産果実は、雪解けも順調に進み春先の天候も良かったことから、定植及び育成は順調であった。

道内産「スイカ」は、生育期間の天候が良好であったことで、生育・肥大が進み大玉傾向となり、数量は増加となったものの、単価が減少したため、金額は前年並みとなった。

道内産「メロン」は、生育期間の天候が良好であったことで、生育・肥大が進み大玉傾向となり、数量はやや増加したものの、単価がやや減少したため、金額は前年並みとなった。

「みかん類」は、生育期の長雨や台風の影響により、数量・単価・金額共にやや減少となった。

果実全体としては、数量は 49,763 t（前年比 3.8%増）で微増、金額は 18,428,212 千円（前年比 0.3%増）で微増となった。また、平均単価は 370 円（前年比 3.6%減）で微減となった。